

令和7年度 第1回山梨県地域クラブ活動推進連絡会（概要）

1. 日時 : 令和7年7月22日（火）14時00分から16時30分

2. 場所 : 防災新館 301・302会議室

3. 参加者 :

令和7年度 第1回山梨県地域クラブ活動推進連絡会

2025/7/22開催

No.	所 属	役 職	氏 名	備考
1	山梨学院大学、大東文化大学、山梨大学	名誉教授	遠藤 俊郎	
2	山梨学院大学 スポーツ科学部	学部長	小山 勝弘	
3	山梨大学 大学院総合研究部教育学域人間科学系	教授	関口 浩文	
4	県小中学校校長会	中学部長	清水 岳人	
5	県高等学校校長協会	会長	篠原 健	欠席
6	県小中学校体育連盟	会長	戸田 徳和	
7	県PTA協議会	会長	依田 貴司	
8	県スポーツ推進委員協議会	会長	飯田 忠子	
9	県スポーツ協会 スポーツ振興課	課長	辻 昌彦	
10	県スポーツ指導者協議会	会長	渡邊 悟	
11	総合型地域スポーツクラブ協議会（SC山梨）	理事長	村松 久義	
12	地域スポーツクラブ代表者（VF甲府）	総合型担当	長田 圭介	
13	県吹奏楽連盟	理事長	秋山 岳巨	
14	昭和町教育委員会 生涯学習課	生涯スポーツ係長	深川 慶太	
15	県スポーツ振興課	課長	村松 達也	
16	県教育庁総務課 教育企画室	室長	石原 武人	
17	県教育庁義務教育課	課長	望月 俊孝	古屋 修（代理）
18	県教育庁高校教育課	課長	大久保 雅司	數野 浩司（代理）
19	県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課	課長	玄間 修	向山 広一（代理）
20	県教育庁保健体育課	課長	山本 晃司	
21	県教育庁保健体育課	総括コーディネーター	荻野 昭彦	

【オブザーバー】

22	甲府市教育委員会	コーディネーター	八代 浩	
23	昭和町教育委員会	コーディネーター	望月 一徳	
24	身延町教育委員会	コーディネーター	石川 君男	
25	中北教育事務所	地域教育担当	花形 健一	
26	峡東教育事務所	地域教育担当	風間 謙	
27	峡南教育事務所	地域教育担当	宮澤 研	
28	富士・東部教育事務所	地域教育担当	石原 孝子	

【事務局】

29	県スポーツ振興課 主幹	事務局	高野 泰仁	
30	県スポーツ振興課・生涯スポーツ担当 副主幹	事務局	秋山 知洋	
31	文化振興・文化財課・文化芸術振興担当 課長補佐	事務局	渡辺 忠正	欠席
32	文化振興・文化財課・文化芸術振興担当 主事	事務局	小泉 秀佳	
33	県教育庁義務教育課・教育指導担当 課長補佐	事務局	富士池 慎一	
34	県教育庁義務教育課・教育指導担当 指導主事	事務局	富高 勇樹	
35	県教育庁保健体育課・課長補佐	事務局	秋山 康弘	欠席
36	県教育庁保健体育課・学校体育担当 課長補佐	事務局	岡部 伸二	
37	県教育庁保健体育課・学校体育担当 指導主事	事務局	渡辺 健太郎	
38	県教育庁保健体育課・学校体育担当 指導主事	事務局	田鹿 欣孝	

4. 内容

(1) 報告

- ①「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終とりまとめより
- ②「県内の現状と取り組み等」について

・国の実行会議最終とりまとめの概要説明

※改革の理念及び基本的な考え方

※今後の改革の方向性（次期改革期間・費用負担の在り方等・期待される新たな価値）

※地方公共団体における推進体制の整備

- ・本県のこれまでの取組と課題
- ・本年度の県の取組について説明
- ・市町村の取組状況の報告

※協議会等の設置について

※市町村コーディネーターの配置について

※情報発信について

※地域クラブ活動への移行の取組実施について

※R6 実証事業における費用負担の状況について

- ・県総括コーディネーターによる全市町村ヒアリングについて

※各教育事務所における主な課題や主要要望について

※諸課題に対する県や事務所の支援について

(2) 議事

- ①「部活動改革（地域クラブ活動への展開）の更なる推進・実行へ向けて」について

R8 より改革実行期間となり、休日の学校部活動は R13 までに地域展開完了のスケジュールが示された。各市町村の実情に応じた体制整備を進めている中、本県の部活動改革（地域クラブ活動への展開）をさらに推進・実行するためには、何をどのようにすればよいか？

委員の方々から意見聴取

5. 主な発言

- 地域展開が目指す方向性がはっきりすると良い。休日の地域展開を中心だが、平日はどうなるのか。県のゴールがはっきりすると、理解が進み、推進につながるのでは。
- 子どもたちのニーズ（競技志向や楽しみ志向）に応じた、体制整備を進めていくことが大事であり、受け皿を確保することで推進につながるのでは。
- 大会のことより、活動の場所（受け皿等）を確保することを優先して進めていくことが重要であると思う。
- 障害者スポーツの関係では、パラスポーツセンターの活用が有効である。現在、様々な体験活動等をおこなっているので、各市町村でも活動の一つとして活用していただきたい。
- 現場レベルでやらなければならないこと、それぞれの立場でやらなければならないことがあるので、一つ一つ課題と向き合いながら前向きに取り組むことが大切では。

- 小中体連では、合同チームの規定や地域クラブ活動の参加規定を設ける中で、子どもたちの大会参加機会を確保している。今後は地域クラブが大会参加することが多くなってくるので、指導者の資格や運営体制について検討している。市町村と連携しながら今後も進めていきたい。
- 創設される地域クラブは、子どもたちにとって「学びの場」と考える。これまでの部活動の意識から脱去することが重要だが、不安を持っている教職員がいることは事実である。明確なゴールを示して、学校・地域が一体となって進めていくことが大事。
- 県が示すロードマップが進んでいない市町村に対して、支援やアプローチしていただきたい。協議会等を立ち上げないと全く進まない。
- 各教育事務所の担当者との連携は本年度の大きな一歩である。県内各市町村の情報共有と好事例を今後も発信していただきたい。